Ceftizoxime の内科領域における臨床的検討

伊藤 章·進藤邦彦·福島 宇 吉 横浜市立大学第一内科

神永陽一郎·佐藤芳美·崎山典子 横浜市立大学中央検査室細菌部

Ceftizoxime について臨床的検討を加えた。抗菌力については Ceftizoxime の臨床分離の *E. coli* (20株), *K. pneumoniae* (18株), *S. marcescens* (14株) および *P. cepacia* (49株) に対する MIC は低く,とくに *P. cepacia* に対しては他剤と比較し強い抗菌力を示した。また、いずれの菌種も100 μg/ml 以上の耐性株は存在しなかった。

臨床的には、内科系感染症患者12名に本剤の治療を13回試み、のべ13例中、 著効1例、 有効9例、 やや有効1例、無効1例、判定不能1例、(有効率83.3%) の成績を得た。また、このうち8例は他の抗生剤無効例であり本剤投与により6例に改善を認めた。

副作用として、発疹1例、GOT・GPT の軽度上昇1例を認めた。以上の成績から、本剤はグラム 陰性桿菌感染症はもちろん他剤無効例に対しても充分用い得る新抗生物質であると言えよう。

緒 言

Ceftizoxime は藤沢薬品中央研究所で創製された新しい注射 用 cephalosporin 系抗生物質で,構造的には 7-アミノセファロスポラン酸の3位置換基がない点が他剤と異なる点である。

本剤は、グラム陰性桿菌に対する抗菌力が非常に強く、従来の cephalosporin 系剤では無効であったインドール陽性 Proteus, Enterobacter, Serratia, Citrobacter, H. influenzaeや機気性菌などにも強い抗菌力を有する1,2)。また、β-lactamase に対しても非常に安定で、多剤耐性菌に対しても強い抗菌力を示すとされている1)。

血清中濃度は CEZ の約36で、半減期は CEZ よりやや短い。 体内では代謝を受けず、投与後 8 時間までに70~90%が尿中に 排泄される。喀痰、髄液、胆汁などにも高濃度に移行する¹⁾。

以上の特長を有する Ceftizoxime を臨床的に応用する機会 を得たので、その成績について報告する。

I. 研究方法

1. 試験管内抗菌力

脳床材料から分離された E. coli 20株, K. pneumoniae 18 株, S. marcescens 14株, P. cepacia 49 株の計101 株について化学療法学会標準法により前3 菌については Ceftizoxime だけ, P. cepacia については Ceftizoximeのほかに CEZ, CXM, CPZ, SBPC, NA, CP, TC, MINO, GM の MIC を測定した。なお、接種菌量は 108 cells/mlとしたが、P. cepacia だけ 106 cells/mlとした。

2. 臨床的検討

昭和53年11月から昭和54年7月までに当内科入院患者の内科領域感染症患者に Ceftizoxime による治療を行ない、細菌学的効果、臨床効果、本剤投与前後における臨床検査値、副作用などについて検討した。

Ceftizoxime は、 $1回量0.5\sim2g$ v 1 H $1\sim2$ H 1 $1\sim2$ H $1\sim2$ H

効果の判定は、発熱、白血球数、好中球%、CRP、血 沈、検出菌の消長、胸部レ線陰影、喀痰の量と性状、尿 所見等を参考にして判定し、著効、有効、やや有効、無 効の4段階に分け行なった。

Ⅱ. 研究成績

- 1. 試験管内抗菌力
- a) E.coli, K. pneumoniae, S. marcescens (Table 1) Table 1 に示すとおり, Ceftizoxime ≤0.1 µg/ml の MIC を示した株は, E.coli では 20株中19株, K. pneumoniae では18株中全株, S. marcescens では14株中7株であり, その他の菌株に対する MIC も S. marcescens 1株 (MIC:50 µg/ml) を除き, 3.13 µg/ml 以下で非常に強い抗菌力を示した。
 - b) P. cepacia (Table 2, Fig. 1)

血液分離24株, 尿分離13株およびその他の材料から分離された12株, 計49株の感受性分布は Table 2, Fig. 1

Table 1 Sensitivity of clinically isolated gram-negative bacilli to Ceftizoxime

Organisms	No. of strains inhibited with MIC (μg/ml) of										
(No. of strains)	≦0.1	0.2	0.39	0.78	1.56	3.13	6.25	12.5	25	50	100
E. coli (20)	19		1			7					
K. pneumoniae (18)	18	·			,				~		
S. marcescens (14)	7		4		1	1				1	

Inoculum size: 108 cells/ml

Table 2 Sensitivity of 49 strains of P. cepacia to Ceftizoxime (CZX) and other antibiotics

Drugs	Source No. of strains inhibited with MIC(,						IIC(µg/ml) of		
Drugs	Source	0.78	1.56	3.13	6.25	12.5	25	50	100	≥200
C Z X	Blood Urine Others*		13 8 3	11 5 9				,		
CEZ	Blood Urine Others									24 13 12
СХМ	Blood Urine Others				18 12 5	5 1 6		1		
C P Z	Blood Urine Others				* }	ring.	16 12 5	7 1 6		1
SBPC	Blood Urine Others				การระบา ใส่สาน	· Va	14 3 6	8 8 4	1 2 1	* s 1
NA	Blood Urine Others					10 4 9	14 8 3	1		
СР	Blood Urine Others	1 ° ~ 103		1			23 13 12	1	-	
TC	Blood Urine Others	٠.		, f			2. 8	:		24 13 12
MINO	Blood Urine Others						3 1 3	16 (-) 9 6	5 3 3	of the of
GM	Blood Urine Others		. ,	, -			· ·		,	24 13 12

^{*} Liquor 4 strains, Sputum 2 strains, Pus 1 strain, Pleural fluid 1 strain, Lymph 1 strain, Tip of cathether 3 strains.

Inoculum size: 10⁸ cells/ml

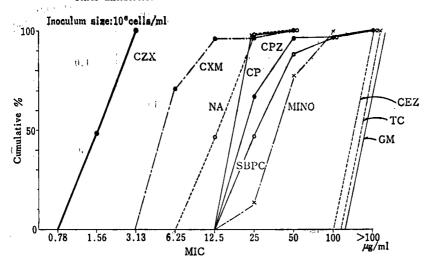


Fig. 1 Sensitivity of 49 strains of *P. cepacia* to Ceftizoxime (CZX) and other antibiotics

に示すとおりで、分離材料による MIC の差異はいずれの薬剤でも認められなかった。

Ceftizoxime に対しては、 $1.56 \, \mu g/ml$ と $3.13 \, \mu g/ml$ に全株が分布しており耐性株は認められなかった。次いで良好な感受性を示す薬剤は CXM で MIC $6.25 \, \mu g/ml$ と $12.5 \, \mu g/ml$ とに49株中47株が分布した。NA では $12.5 \, \mu g/ml$ とに49株中47株が分布した。NA では $12.5 \, \mu g/ml$ 以上の耐性株であった。CPZ、SBPC、CP、MINO では、すべて $25 \, \mu g/ml$ 以上に分布し 感受性株は みられなかった。CEZ、TC、GM では全株 $200 \, \mu g/ml$ 以上の高度耐性株であった。

2. 臨床的検討 (Table 3, Table 4)

Ceftizoxime は、21才から75才までの男性5名、女性7名、针12名に13例(13回)投与した。対象疾患は、呼吸器感染症5例(慢性気管支拡張症の急性増悪3例、急性気管支肺炎1例、膿胸1例)、敗血症6例、急性腎盂腎炎2例で、これらのうち12例に何らかの基礎疾患(血液疾患6例、気管支拡張症3例、上顎痛1例、肝硬変・糖尿病合併1例、尿路結石・劇症肝炎合併1例)があった。また、本剤投与時の疾患の重症度は重症3例、中等症7例、軽症3例であった。

投与量および投与方法は1回0.5g1例,1g5例,他は2gで、2例に1日1回,他は1日2回投与した。

投与経略は、3例が筋注で、他は点商静注(1時間点 商8例、2時間点商2例)であった。投与期間は副作用 のため1日で中止した症例 No.8を除くと3日から47 日間で平均17日間であった。

1-11-5

分離菌としては、尿から K. pneumoniae (1例), 胸水から E. coli (1例), 喀痰から P. aeruginosa (4例) および H. influenzae (1例) が検出されたが、他例では頻回の検査にもかかわらず菌は検出されなかった。このうち、細菌学的効果を判定しえたものは5例で、消失3例、不変1例、菌交代1例で、他は不明とした。

臨床的には,著効1例,有効9例,やや有効1例,無効1例,判定不能1例で,13例中10例に有効が認められ,その有効率は83.3%であった。

副作用として、症例 No. 8 に投与翌日に前胸部から全身にかけて紅斑様発疹をみとめたため本剤の投与を中止した。症状は中止後 4,5 日で消失し順調に経過した。本例は以前ペニシリンによる薬疹の既往もあった例であるが、CEZ および本剤に対する 皮内反応は いずれも陰性であった。

本剤投与前後に、正常値から異常値へ、および異常値であったものが、さらに 増悪した例について みると、GOT 上昇3例 (症例 No. 6, 9, 10)、GPT 上昇6例 (症例 No. 5, 6, 7-1, 9, 10, 11)、AI-P 上昇4例 (症例 No. 2, 5, 6, 12)、赤血球数減少5例 (症例 No. 4, 7-1, 9, 11, 12) で認められた (Table 4)。原疾患による影響および他の治療薬との関係もあり必ずしも本剤によるとは言えないが、これらの異常値と本剤との関連性については後述する。

以下、症例を示す。

A Pierry

Table 3 Clinical results

			X				
	1	1. 1		Ī ,.	Therapy	with CZX	
Case No.	Name	Age, Sex	Diagnosis (Underlying disease)	Severity of illness	Daily dosage	Duration (days)	
1	к.s.	59 M	Chr. bronchiectasis -Acute exacerbation-	Mild	1.0 ∕ 1	12	I. M.
2	Т.К.	75 F	Chr. bronchiectasis -Acute exacerbation-	Mild	1.0 < 1	3	I. M.
3	M.M.	28 F	Chr. bronchiectasis -Acute exacerbation-	Mild	2.0 × 2	11	D. I. (2 hr)
4	T.F.	60 F	Sepsis (Malig. reticulosis)	Severe	1.0 × 2	13	D. I. (1 hr)
5	I . M .	35 F	Sepsis (A. M. L.)	Moderate	2.0 - 2	40	D. I. (1 hr)
6	T.S.	62 M	Sepsis (Malig. lymphoma)	Severe	2.0 - 2	10	D. I. (1 hr)
7-(1)	T.S.	36 M	Sepsis (Hodgkin's disease)	Moderate	2.0 - 2	23	D. I. (1 hr)
7-(2)	Т. S.	36 M	Sepsis (Hodgkin's disease)	Moderate	2.0×2	10	D. I. (1 hr)
8	M.S.	47 F	Acute pyelitis (Urolithiasis (Flum. hepatitis)	Severe	2.0 - 2	1	D. I. (2 hr)
9	S.H.	21 F	Acute pyelonephritis	Moderate	0.5 × 2	7.5	I. M.
10	G.Y.	51 M	Pyothorax (Livercirrhosis, D. M.)	Moderate	1.0×2	23	D. I. (1 hr)
11	S.K.	42 F	Sepsis (Multiple myeloma)	Moderate	2.0×2	6	D. I. (1 hr)
12	S.N.	71 M	Bronchopneumonia (K. K. K.)	Moderate	1.0×2	47	D. I. (1 hr)
	1	1 1		T.	1	i	I

症例9 S.H., 21才, 女性, 急性腎盂腎炎

また, 自・他覚的副作用は認められなかった。(Fig. 2) 症例10 G.Y., 51才, 男性, 膿胸

肝硬変、糖尿病のため入院中胸腹水貯留、発熱(38.4 ℃)を呈した症例で、CEZ 1日2gを14日間投与したが、下熱せず、Ceftizoxime による治療に切りかえた。 胸水からは E. coli が検出された。投与1週後には平熱となり、また CRP の改善、胸水中菌陰性を認めたの with Ceftizoxime (CZX)

Organisms detected	Bacteriological effect	Clinical effect	Side effect	Remarks	
(Sputum) P. aeruginosa→P. aeruginosa	Unchanged	+	_	Sputum (80 ml→40 ml)	
(Sputum) (-)	Unknown	+	-	Sputum ↓	
(Sputum) P. aeruginosa→(−)	Eliminated	+	-	Fever ↓, Sputum ↓ CRP: 2+→±	
(Blood, Urine) (-)	Unknown	±	_	Fever V	
(Blood, Urine) (-)	Unknown	+	_	Fever ↓, CRP: 3+→- ESR(1 hr): 169→60 DKB(0.2 g/day) injected concomitantly	
(Blood, Urine) (-)	Unknown	+	-	Fever ↓ AMK(0.4 g/day) injecte concomitantly	
(Sputum) P. aeruginosa→P. aeruginosa (Blood, Urine) (-)	Unknown	+	_	Fever ↓ CRP: 6+→4+	
(Sputum) P. aeruginosa→P. aeruginosa	Unknown	_	_	Fever unchanged CRP: 6+→6+	
N. D.	Unknown	?	Eruption on 2 nd d.		
(Urine) K. pneumoniae 10⁴→(-)	Eliminated	#	_	Fever ↓ WBC: 21,300→4,600	
(Pleural fluid) E. coli→(-)	Eliminated	+	· -	Fever ↓, CRP: 2+→± ESR(1 hr): 38→29	
(Blood, Urine) (-)	Unknown	+	-	Fever \	
(Sputum) H.influenzae, S.aureus →Candida albicans	Colonization	+	_	Fever ↓ CRP: 3+→2+ ESR(1 hr): 61→60 WBC: 14,400→10,000 Sputum(100 ml→20 ml)	

で、有効とした。 副作用は 認められなかった。 **(Fig.** 3)

Ⅱ. 考案

1. 抗菌力について

Ceftizoxime は、グラム陰性桿菌に対する抗菌力が非常に強く、E.coli、K. pneumoniae、P. mirabilis など

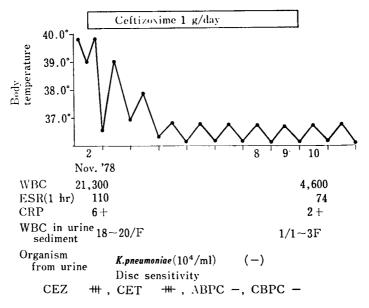
に対してはもちろん、従来の cephalosporin 系剂では 抗菌力の弱かった H.influenzae、インドール陽性 Proteus、Serratia、Enterobacter、Citrobacter や B. fragilis をはじめとする嫌気性菌に対しても強い抗菌力 を示している。 われわれの 検討では、 E. coli および K. pneumoniae に対し全株 0.39 µg/ml 以下の MIC を 示し、 S. marcescens に対しても 1 株を除き 3.13 µg/

Table 4 Laboratory findings before and after administration of Ceftizoxime

Case No.	G	т	GI	PT T	Λ1	P	BU (mg	J N /dl)	Creat (mg)		(/m:		RE (×104)		Albu uria (mg/	min- /dl)
No.	В	A	В	A	В	A	В	A	В	A	В	A	В	A	В	A
1	25	28	26	27	85*	71*	11	10	1.0	1.0	6,200	6,600	488	486	_	-
2	25	20	13	11	90*	113*	8	10	0.7	0.6	7,000	9,700	370	429	_	_
3	11	13	4	5	164	150	8	10	1.0	1.0	4,200	4,100	423	386		
4	550	62	278	28			16	10	0.9	0.9	1,400	3,000	255	207	_	-
5	27	14	16	30	82	279	8	19	0.7	0.7	8,600	3,700	210	278	85	36
6	27	35	13	32	83*	97*	16	15	1.1	0.7	8,100	6,300	391	419	45	4
7 -(1)	10	27	5	48			11	10	0.7	0.6	2,700	3,500	315	274	10	_
8							32	8	2.1	0.9	10,900	5,600	439	395		ļ
9	26	32→28	23	45→29	64*	66*	9	8	0.9	0.7	21,300	4,600	386	364	6	-
10	84	120	21	51	163	170	14	16	0.8	0.7	3,300	4,800	260	307	_	-
11	107	70	71	109	137	196	17	9	1.4	1.0	1,700	1,100	248	220	54	36
12	14	11	20	11	156	392	13	17	0.9	1.1	14,400	10,000	460	368	_	-
Normal range	9~27	'mU/ml	4~27	mU/ml	*24~88 79~219	mU/ml mU/ml	6~	~20	M:1.0		5,000~	-8,500	M: 41 F: 38	0~530 0~480		

B: Before administration A: After administration

Fig. 2 Case No. 9: S. H. 21 yrs. F. Acute pyelonephritis



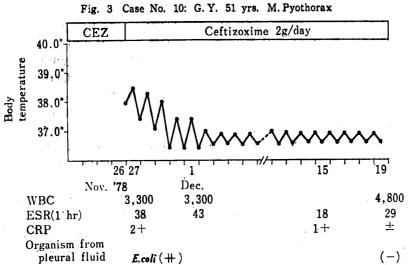


Table 5 Chemotherapy before administration of Ceftizoxime

E.coli (#)

pleural fluid

	Table 5 Chemothe	re Ceftizoxim		
Case	Befo	Clinical effect		
No.	Antibiotics	Daily dose	Clinical effect	of Ceftizoxime
1	4 -	, <u>.</u>	-	Good
2	CPZ	1 g	Side effect	Good
3		_		Good
4	AMK S-T combination	200 mg 4 tab.	Poor	Fair
5	CEZ	4 g	Poor	Good
6	,	_	_	Good
7-(1)	CEX	2 g	?	Good
7-(2)	_	_	_	Poor
8	CEZ	2 g	Poor	?
9 11/10/1	erase, some		-	Excellent
10	CEZ	2 g	Poor	Good
11 11 11	СВРС	10 g	Poor	Good
12	CGP-9000	1.5 g	Poor	Good

ml 以下の MICで、従来の cephalosporin 系剂では考えられない程の低い MIC であった。また、ブドウ糖非能 酸性 グラム酸性 桿菌である *P. cepacia* に対しても全株 3.13 µg/ml 以下の MIC を示し、CEZ が全株 200 µg/ml 以上を示したのに対し強い抗菌力がうかがわれた。

2. 臨床効果について

Ceftizoxime は、上述のとおり強い抗菌力を有するため臨床的応用への反映が期待される訳であるが、第26回日本化学療法学会東日本支部総会新薬シンポジウムでの全国集計りによると、内科領域感染症での有効率は、呼吸器感染症75.6%、屏路感染症では77.4%であり、全体では477例中75.9%の行効率を示している。また、抗菌力を反映させる1つの証拠としての他削無効例に対する臨床効果をみてみると、cephalosporin 系削無効例に対し66.1%、penicillin 系削無効例に対し63.6%、aminoglycoside 系削無効例に対し44.4%の有効率が得られており、全体でも64.4%と高い有効率であったり。われわれの検討症例についても、12名13例中12例が基礎疾患を有しており、さらに10例が中等度以上の重症度でありながら、12名13例中10例に有効以上の効果がみられ、全国集計とほぼ同じ成績であった。

本剤投与前に他の抗生剤が用いられている例は Table 5に示すとおり 8 例あるが、その内訳は cephalosporin 系剤 6 例、penicillin 系剤 1 例、aminoglycoside 系剤と ST 合剤 1 例で、いずれも無効または副作用のため投与中止し本剤投与に切りかえた症例である。その結果は 8 例中 Ceftizoxime 有効 6 例、やや有効 1 例、判定不能 1 例で、他剤無効例に対して75%もの高率に有効例が認められたことは特筆に値しよう。

3. 副作用

臨床検査値への影響について Ceftizoxime の副作用 全国集計では、自他覚症状として、発疹9例 (0.8%), 発熱11例 (1.0%), 消化器症状6例 (0.5%), また臨床 検査値の異常として、好酸球増多、GOT 上昇、GPT 上昇が各々3.5%、1.6%、1.3%の順に報告されているい。 われわれの検討症例では、副作用として発疹が1例 (症例 No. 8) だけに認められた。この症例は尿路結石治療中劇症肝炎を合併し高熱をきたし CEZ を投与するも下熱しないため本剤にきりかえた例である。次に、臨床検査値異常を示した例について本剤との関連性について検討してみる。症例 No. 2 は投与前から Al-P が軽度異常値を示しており、投与後113とやや上昇した。その後の検査はなされていないが異常値内の変動であり、本剤との因果関係は不明である。症例 No. 4 は赤血球数減少が認められたが、悪性細網症例であり、輸血を行なわな

いとすぐ赤血球数減少を繰り返していたもので、この減少は原疾患によるものと考えられた。

症例 No. 5 では GPT および Al-P が正常値から異 常価へ上昇している。原疾患(AML)の治療として DCMP 二段療法および輸血が繰り返されており、本制 投与前にも時々異常値が観察されており本剤による影響 とは考えにくい。症例 No. 6 では GOT, GPT, AI-P が正常値から異常値へと変動したが、本剤投与後6日目 に GOT 28, GPT 24と正常化したが、Al-P は100で さらに8日後には GOT 22, GPT 15, Al-P 92 とやや下 っていたが AI-P はなお異常値であった。本例は悪性リ ンパ脈合併例で、 VENP 療法、 輸血などがなされてお り、木割よりもこれらの治療による影響と考えられる。 症例 No. 7-(1)では GPT 上昇および赤血球数減少が認 められたが、本例は HODGKIN 病合併例で、そのための VEMP 療法、頻回にわたる輸血に起因すると考えられ る。 症例 No. 9 は GOT, GPT に軽度異常値が認めら れている。本例は急性腎盂腎炎例で、とくに基礎疾患も なく他剤の併用もないため本剤の影響と考えられる。な お、GPT は1ヵ月後20と正常化している。赤血球数の 減少については本剤との因果関係はうすいと考えられる が不明である。 症例 No.10では GOT, GPT に異常値 がみられているが、原疾患に肝硬変があり、本剤による とは考えにくい。症例 No.11 は GPT の上昇および赤 血球数の減少がみられている。本例では多発性骨髄腫の ためメルファランが投与されており、また輪血も繰り返 されていることから、本剤よりはこれらのためと考えら れる。 症例 No. 12 では Al-P の上昇, 赤血球数の減少 が認められたが、 上顎癌全身転移の ため、 本剤投与中 60Co 照射も行なわれており、 それらの治療および原疾 **患の影響と考えられる。**

以上から、われわれの検討症例では本剤によると思われる副作用および臨床検査異常として、発疹1例、GOT、GPT の軽度上昇1例があったと考えられる。

- 1) 第26回日本化学療法学会東日本支部総会新薬シンポジウム F K749 (Ceftizoxime), 1979 (東京)
- KAMIMURA, T.; Y. MATSUMOTO, N. OKADA, Y. MINE, M. NISHIDA, S. GOTO & S. KUWAHARA: Ceftizoxime (FK 749), a new parenteral cephalosporin: In vitro and in vivo antibacterial activities. Antimicr. Agents & Chemoth. 16 (5): 540~548, 1979
- 日本化学療法学会: 最小発育阻止濃度 (MIC) 測定法。
 Chemotherapy 23: 1~2, 1975

CLINICAL STUDIES ON CEFTIZOXIME IN THE FIELD OF INTERNAL MEDICINE

AKIRA ITO, KUNIHIKO SHINDO and KOKICHI FUKUSHIMA

The First Department of Internal Medicine, Yokohama City University School of Medicine

YOICHIRO KAMINAGA, YOSHIMI SATO and NORIKO SHIROYAMA

Department of Microbiology, Central Laboratory,

Yokohama City University School of Medicine

Clinical studies were made on ceftizoxime (CZX), a new injectable cephalosporin antibiotic, and the following results were obtained.

- 1. Noticeably low minimal inhibitory concentrations (MICs) were observed for ceftizoxime against clinical isolates of *E. coli* (20 strains), *K. pneumoniae* (18 strains), *S. marcescens* (14 strains) and *P. cepacia* (49 strains), the activity against the *P. cepacia* being particularly marked as compared to other antibiotic. None of these clinical isolates was found resistant to ceftizoxime, with an MIC over 100 μ g/ml.
- 2. A total of 13 courses of ceftizoxime therapy were performed in 12 patients with infections. The treatment produced a marked clinical improvement in 1 case, a moderate improvement in 9 cases, a slight improvement in 1 case and no improvement in 1 case while the clinial response could not be assessed in the remaining 1 case (effectiveness rate: 83.3%). Of 8 cases which were refractory to other antimicrobial chemotherapy, 6 responded with clinical improvement to the ceftizoxime treatment. Eruption and a slight elevation of serum transaminase were noted as side-effects in 1 case each.

It would follow from the results that ceftizoxime is a new antibiotic with potential usefulness not only against infections by gram-negative bacilli but in cases refractory to other drugs as well.